

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実  
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実  
 基本事業 教育内容の充実

事業名 **社会人による教育活動等支援事業**

[0766]

部名	教育部	事業開始年度	平成18年度	実施計画事業認定	対象
課名	学校教育支援室 学校教育課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内小中学校の児童生徒</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>児童生徒の学習意欲や興味等を向上させるとともに、将来設計意識や職業観等の育成を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>文化・芸術など多岐にわたる分野の中から秀でた社会人を幅広く募り、各教科の授業の中で講師として活用する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	小中学校児童生徒数	人	11,204	10,941	10,674	10,319
対象指標2						
活動指標1	社会人を活用した授業を申請した学校数	校	10	9	13	29
活動指標2						
成果指標1	社会人を活用した授業を実施した学校数	校	9	9	13	29
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	896	610	509	1,000
正職員人件費 (B)		千円	837	836	830	833
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>1,733</b>	<b>1,446</b>	<b>1,339</b>	<b>1,833</b>

費用内訳	
21年度	報償費 509千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	様々な分野で秀でた社会人を各学校に派遣し、実践的かつ質の高い授業を行うことで、児童生徒の学習意欲や学力向上等を図るほか、職業観等の育成を図る。	事業を取り巻く環境変化	
--------	---	-------------	--

## 21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・  
根拠は？

様々な分野で秀でた社会人講師を各学校に派遣することにより、通常授業とは異なる視点をもつ興味深い授業を行うことができ、妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

学習意欲や学力の向上と将来設計意識の育成に貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・  
根拠は？

事業開始から3年が経過し、趣旨が学校に理解され定着してきている。しかし、授業内容や実施校が固定化し、実施校数が増えていない状況にある。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

新しい分野の社会人講師を活用し、実施校数を増やすことで、成果を向上させることができる。  
また、総合学習の授業にも活用できるようにする。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・  
根拠は？

社会人講師を活用するにあたり、これ以上報償単価を引き下げるのは難しい。